



カケハシ・プロジェクト（米国） アメリカボウル派遣の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本の高校生を対象に開催されているアメリカボウル大会^{（注）}の成績優秀者ら 10 名を、日米に対する理解促進を目的として米国ワシントン D.C.へ派遣しました。米国滞在中、一行は現地大使館や政府関係機関への訪問、生徒との交流を通じて、日米関係や両国の文化、外交関係について学び、日米両国の友好・信頼関係を深めました。異なる文化や習慣に触れながら学びや気づきを得るとともに、交流先で出会った人々に向けて日本の魅力を発信しました。

（注）アメリカボウル大会：一般財団法人日米協会が、日本人高校生が英語を通じて米国に関心を持ち、日米関係についての理解を深めることを目的に主催している大会

【参加者】日本の高校生及び一般社団法人日米協会関係者 合計 10 名

（内訳） 開成高等学校の生徒 3 名

神奈川県立多摩高等学校の生徒 3 名

神奈川県立横浜翠嵐高等学校の生徒 3 名

一般社団法人日米協会関係者 1 名

【訪問地】米国 コロンビア特別区（ワシントン D.C.）、バージニア州ロートン

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

3 月 9 日（月曜日） 【渡航前オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等

■ 派遣プログラム：

3 月 18 日（水曜日） 羽田空港より出国、ワシントン・ダレス国際空港より米国入国
【到着時オリエンテーション】

3 月 19 日（木曜日） 【学校交流】South County High School
【視察】リンカーン記念塔

3 月 20 日（金曜日） 【視察】全米日系米国人記念碑
案内人：国立日系米国人記念財団 ジョン・トベ 氏
【視察】米国議会図書館
【視察】ワシントン DC 日米協会
【視察】国立アメリカ歴史博物館
【ホストファミリー対面式】

3 月 21 日（土曜日） 【ホームステイ】バージニア州ロートン

3 月 22 日（日曜日） 【ホストファミリー歓送会】

3月23日（月曜日） 【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館
 山田 重夫 駐米大使
 大平 真嗣 公使（広報文化担当）兼日本広報文化センター所長
 【視察】国会議事堂
 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、
 帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

3月24日（火曜日） ワシントン・ダレス国際空港より出国

3月25日（水曜日） 羽田空港到着

2. 記録写真

派遣プログラム

	
2026 年 3 月 19 日【学校交流】 South County High School	2026 年 3 月 19 日【視察】リンカーン記念塔
	
2026 年 3 月 20 日【視察】全米日系米国人記念碑	2026 年 3 月 20 日【視察】米国議会図書館
	
2026 年 3 月 20 日【視察】 ワシントン DC 日米協会	2026 年 3 月 20 日【視察】 国立アメリカ歴史博物館

	
2026 年 3 月 23 日【表敬訪問】在アメリカ合衆国 日本国大使館 山田 重夫 駐米大使	2026 年 3 月 23 日【視察】国会議事堂

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

外務省の在米日本国大使館への訪問は非常に興味深かったです。そこでは、大使とお会いして貴重なお話を伺いました。外務省は、米国と日本の友好関係を強化するというアメリカボウルの目的をより大きなスケールで達成しようとしている組織なので、とても参考になりました。特に、その一環として観光客の往来の役割の大きさについてもお話いただきました。観光を通して互いの国の文化についての理解を深めることは平和な社会の実現に向けて重要であり、ワシントン DC の桜祭りはその最たる例だそうです。

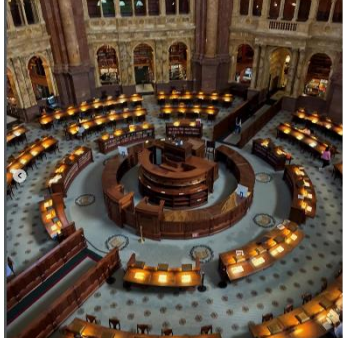
◆ 高校生

South County High School での交流が最も良かったです。現地の高校での交流では、私たちが行った日本に関するプレゼンテーションへの反応から、彼らの日本への理解がどれくらいのものが分かった他、彼らとの会話は同年代の生の英語に触れるという意味で語学力の面でも貴重な経験となりました。また、高校の広さや作り、制度などが日本とは根本的に異なっていることが分かり、双方の制度のメリットやデメリット、国民性に与える影響などを考える契機を与えてくれました。

◆ 高校生

ホームステイが非常に楽しく、最も充実したプログラムでした。通常であれば立ち入れないような場所で、通常であれば会うことのできない人から案内を受けて学びを得る機会はもちろん大変貴重でしたが、最後にホームステイがあることで、それらの経験を活かして生の知識を手に入れることができ、良かったと思います。

4. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 れ、第二次世界大戦下という過酷な時代に強制収容という不当な差別にどのくらい苦しんだのか、戦後の生活にどのような影響があったのか、という疑問を抱き、訪れた。戦後の生活にどのような影響があったのか、という疑問を抱き、訪れた。戦後の生活にどのような影響があったのか、という疑問を抱き、訪れた。 Visiting the National Japanese American Memorial in Washington, D.C., I reflected deeply on the journey of the Japanese Americans who, despite facing unjust discrimination every day of the week and forced internment during the harsh times of World War II, kept their loyalty to their homeland etched in their hearts and went to the battlefield as the 442nd Central Postal Directory. I strongly felt that their dedication went beyond mere loyalty to the nation; at its core lay the purest, most heartfelt human desire—the wish to “protect their families”—even though they were placed in an unjust situation. This encounter with this historic site provided a valuable opportunity to reflect deeply once again on the multi-layered nature of identity among people from different backgrounds, as well as the essence of dignity when facing adversity. Thank you very much for sharing your valuable insights. Instagram: 1984541	 ワシントンD.C.で訪れた議会図書館。まず圧倒されたのは、その膨大な蔵書の数だけではなく、知を「守り、整理し、繋いできた」人々の熱量でした。特に印象的だったのが、デジタル化される前の「貸し出しカード」が保管されている倉庫。かつて誰かがその1枚を手繰り寄せ、一冊の本に出会った…。そんなアナログな手触りが、今の膨大なデジタルアーカイブの基礎になっていることに、歴史の重みを感じました。 To the world's largest sanctuary of memory, home to 38 million volumes. My visit to the Library of Congress in Washington, D.C., left me breathless—not just by the sheer scale of the collection, but by the passion of those who have protected, organized, and passed down this human knowledge. A standout moment was visiting the archives of the original physical catalog cards from the pre-digital era. Thinking about how someone once reached for a single card to discover a single book... that analog touch felt like the very foundation of today's massive digital archives. It was a profound reminder of the weight of history. In the Asian Reading Room, seeing our own cultural footprints preserved so carefully in this distant land was a truly humbling experience. This is more than just a library; it is a vast geological layer of human curiosity stacked over centuries. Instagram: 1984541
2026 年 3 月 20 日 (Instagram) 高校生 ワシントン D.C.の「全米日系米国人記念碑」を訪れ、第二次世界大戦下という過酷な時代に強制収容という不当な差別に日々、直面しながらも、祖国への忠誠を胸に第 442 連隊戦闘団として戦地へ赴いた日系人たちの歩みに深く思いを馳せました。彼らの献身は、単なる国家への忠義に留まるものではなく、その根底には、不条理な状況下に置かれた「家族を守り抜く」という、人間としての最も純粋で切実な願いが宿っていたことを強く実感しました。この歴史的空間との対話は、異なるルーツを持つ人々が抱くアイデンティティの多層性や、逆境における尊厳の在り方について、改めて深く再考する貴重な契機となりました。貴重なお話ありがとうございました。	2026 年 3 月 20 日 (Instagram) 高校生 世界最大、3800 万冊の記憶が眠る場所へ。ワシントン D.C.で訪れた議会図書館。まず圧倒されたのは、その膨大な蔵書の数だけではなく、知を「守り、整理し、繋いできた」人々の熱量でした。特に印象的だったのが、デジタル化される前の「貸し出しカード」が保管されている倉庫。かつて誰かがその1枚を手繰り寄せ、一冊の本に出会った…。そんなアナログな手触りが、今の膨大なデジタルアーカイブの基礎になっていることに、歴史の重みを感じました。アジアコーナーでは、遠く離れた地で大切に保管されている自国の文化の足跡に触れ、背筋が伸びる思いになりました。単なる「図書館」ではなく、人類の好奇心が積み重なってできた巨大な地層のような場所でした。
 We visited the Library of Congress. The library houses many historically valuable items, including Stradivarius instruments, which helped us appreciate the importance of preserving cultural heritage. It also holds examples of traditional Japanese Yamato-e paintings, allowing us to gain a deeper understanding of the cultural ties between Japan and the United States.	 ラス越しに並ぶ「本物」たちは、ただの展示物ではなく、歴史の重みを感じました。特に印象的だったのが、デジタル化される前の「貸し出しカード」が保管されている倉庫。かつて誰かがその1枚を手繰り寄せ、一冊の本に出会った…。そんなアナログな手触りが、今の膨大なデジタルアーカイブの基礎になっていることに、歴史の重みを感じました。 At the National Museum of American History in D.C., the artifacts listed on the exhibit just behind the glass weren't just exhibits; they felt like history itself breathing. The pattern of history, the memories of food, the warmth of daily life—everything spoke to me in a quiet, steady voice. Standing before Abraham Lincoln's hat, I realized that history isn't a distant past, but a living, breathing part of our lives. My experience at the WWII exhibit resonated deeply. It forced me to confront a gap in my understanding between Japan and the U.S.—a difference in values I had sensed before but only now felt with certainty. What struck me most was a curator's remark: they approach these exhibits with the mindset of competing with Disneyland. It revealed a fierce sense of responsibility to make history truly "real" people and stay alive in their hearts. Instagram: 1984541
2025 年 3 月 20 日 (Instagram) 高校生 私たちは議会図書館を訪問しました。同館にはストラディバリウス・ヴァイオリンをはじめとする	2025 年 3 月 20 日 (Instagram) 高校生 ワシントン D.C.の国立アメリカ歴史博物館へ。ガラス越しに並ぶ「本物」たちは、ただの展示物では

歴史的に貴重な品々が数多く収蔵されており、文化遺産を保存することの重要性を改めて実感させられました。また、日本の伝統的な大和絵の作品も所蔵されており、日米間の文化的つながりについてより深く理解することができました。

なく、時代そのものが息をしているようでした。産業の鼓動、食の記憶、暮らしの温度、そのすべてが静かに語りかけてくる—エイブラハム・リンカーンの帽子の前で、歴史は遠い過去ではなく、今も続く物語だと気づく、第二次世界大戦の展示の中で感じた日本での捉え方との差は、うすうす感じながらも確信できずにいた価値観の違いを実感しました。またディズニーランドと競う気持ちで展示を考えているという学芸員の言葉には人々に歴史を届ける強い責任感を感じました。



2026 年 4 月 9 日（神奈川県立横浜翠嵐高等学校の Web サイト）

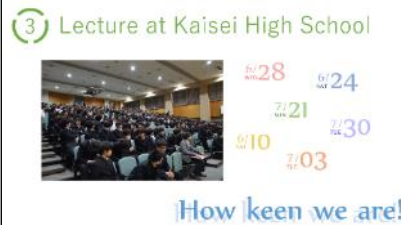
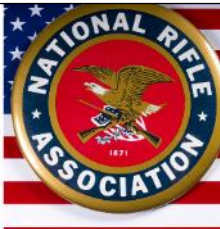
「『第 5 回アメリカボウル』で優勝しました」
10 月 18 日（土曜日）に赤坂区民センターで開催された「第 5 回アメリカボウル」に国際交流委員会とクイズ研究部の合同チームで参加し、優勝を果たしました。アメリカボウルとは、アメリカの文化、歴史、地理などがクイズ形式で出題され、進行や解答がすべて英語で行われる大会です。32 校の参加校の中から予選を勝ち抜き、決勝戦では上位 6 校と舞台上で熱戦を繰り広げました。上位 3 校に入賞したため、出場した生徒には、来年 3 月にワシントン D.C.にて行われる米国短期訪問プログラム（外務省の事業）に参加する権利が贈呈されました。

2026 年 4 月 26 日（神奈川県立多摩高等学校 卒業生の会 Instagram）

「【栄冠、そしてワシントンへ】多摩高生が『アメリカボウル』で優勝！」
現役の 69 期生（現 3 年生）から、非常に誇らしいニュースが届きました！
2025 年 10 月 18 日に開催された、日米協会主催の高校生英語クイズ大会「第 5 回アメリカボウル」にて、本校の生徒 3 名が見事優勝を果たしました！
●ワシントン D.C.での短期訪問を終えて
優勝の副賞として、3 月下旬にアメリカ・ワシントン D.C.を訪問。在アメリカ合衆国日本国大使館や日米協会本部の訪問、現地のハイスクール見学、さらにはホームステイも体験し、日米の架け橋となるための貴重な一歩を刻んできました。

5. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 3 グループ発表

開成高等学校		
		
【成果の発表】 ・ 日本では、建物は高いが狭い。米国では、建物は低いが広々としている ・ 日本では、駐車場がある。米国では、人々は路上に車を停める ・ 日本の学校では、時間割が厳格に組まれている。米国の学校では、日本の大学のように時間割の自由度が高い 【アクション・プラン】 グループメンバー全員で、3か月以内に、自校で、自校の生徒を対象に、次世代の高校生が海外に触れる機会を増やす為に、プログラム中の収穫や体験談を共有したり訪米中に会った人たちにオンライン講演を行ってもらうよう依頼します。		
神奈川県立多摩高等学校		
気づき ・ 首都でも土地の使い方が盛況 ・ 官公庁も敷地が広く、公園のようにになっている 日本の東京は所狭しと高層ビルが立ち並んでいて、高層ビルもこのような土地の使い方はしていない 	気づき ・ 治安がいい地域ですら銃撃・殺人などが日本よりも頻発している ・ ホストファミリーの空き家の隣家にSWATと軍が発進した事例も ・ NRAの存在が銃社会を確固たるものになっているのでは 	Action Plan 1 ・ When: 1か月以内 ・ Where: インターネット上 ・ To whom: 外交に興味を持っている可能性のある高校生 ・ What: 経歴・気づきの発信 ・ Why: さらなる留学プログラム等の交流の増加 ・ How: 英語ディベート部のInstagramでの発信、JAYS2026参加メンバーへの発信
【成果の発表】 食文化 ・ 量が多い ・ 野菜が少ない（ほぼない） ・ カロリーが多い 性格 ・ フレンドリー ・ 知らない人でも気軽に声をかけてくる ・ スーパーのレジで会話がある 土地の使い方 ・ 首都でも土地の使い方が盛況 ・ 官公庁も敷地が広く、公園のようにになっている		

スラング、文化発信力

- ・ 日本より格段に豊富
- ・ Gen-Z（Z 世代）の文化発信力が高い
- ・ Gen-Z 独自の文化が色濃い
- ・ 流行の移り変わりが速い
- ・ 主に Instagram・TikTok などでデジタルドラッグが流行

銃社会（ライフル協会・SWAT）

- ・ 治安がいい地域ですら銃撃・殺人などが日本よりも頻繁に起こる

多くの人種が当たり前のように混ざっている

- ・ 地域差が大きく、訪問した地域は模範的ダイバーシティ社会だった

【アクション・プラン】

- ・ グループメンバー全員で、1 か月以内に、インターネット上で、さらなる留学プログラム等の交流の増加目的で、外交に興味がある高校生を対象とし、訪米の経験・気づきを英語ディベート部の Instagram での発信や日本・ASEAN ユースサミット 2026 参加メンバーへ発信します。
- ・ グループメンバー全員で、3 か月以内又はそれ以降、主に学校で、さらなる留学プログラム等の交流の増加を目的とし、高校生、教員を対象に、訪米の経験・気づきを生徒総会、生徒会交流会、文化祭で共有します。
- ・ グループメンバー全員で、1 か月以内に、インターネットや広報誌上で、身近な人の体験談を通して興味を持ち、拡散してもらう目的で、学校関係者（生徒、教員、卒業生など）を対象とし、体験と学びについてホームページや同窓会誌への寄稿を同窓会と連携して実施します。

神奈川県立横浜翠嵐高等学校



アクションプラン

- ・ グループ全員で、日本の魅力とアメリカの魅力を日本語と英語の両方を使って発信する。
- ・ 媒体はInstagramおよびMediumを使用する。
- ・ 両サイトの利用者は若年層が中心であるため、発信の対象を若年層におき、若年層における両国の理解促進を目指す。

【成果の発表】

- ・ 日本と比較して博物館などの教育施設が広く解放されていて、内容も小さな子どもでも楽しめるような視覚的にわかりやすいものが多数あった
- ・ 図書館やジム、劇場など、学校の設備が日本の学校と比べて充実していた
- ・ 高校において科目の選択などで日本よりも自主性の高い教育が行なわれていた
- ・ 公園施設にスポーツコートが設置されていて、誰でも多種のスポーツを行うことができた
- ・ 多くの人が自分のルーツや自国の文化を大切にしていた
- ・ 様々なルーツをもつ人が暮らしていて、それぞれが米国という一つの国のアイデンティティを持ちながら自分の文化を尊重していた
- ・ ホームステイ先の方々をはじめ、気前のいい方が多かった
- ・ 高校生は学校でジャンル問わず幅広い活動に取り組むなど、勉強・仕事以外でも活発

- ・ 知らない人ともコミュニケーションを取る
- ・ 日本人でもおいしく食べられる料理が多いが、量が多い
- ・ 米国で日常的に食べられるものには、他国の影響を受けている料理が多い
- ・ ほとんどの場所が日本と同等に衛生的

【アクション・プラン】

グループメンバー全員で、3 か月以内に、SNS（Instagram、Medium）上で、日米両国の魅力を広く伝えることを目的とし、両国の若年層を中心に、日本の魅力と米国の魅力を日本語と英語の両方を使って発信します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）